

まちづくり交付金 事後評価シート
JR芦原温泉駅周辺地区

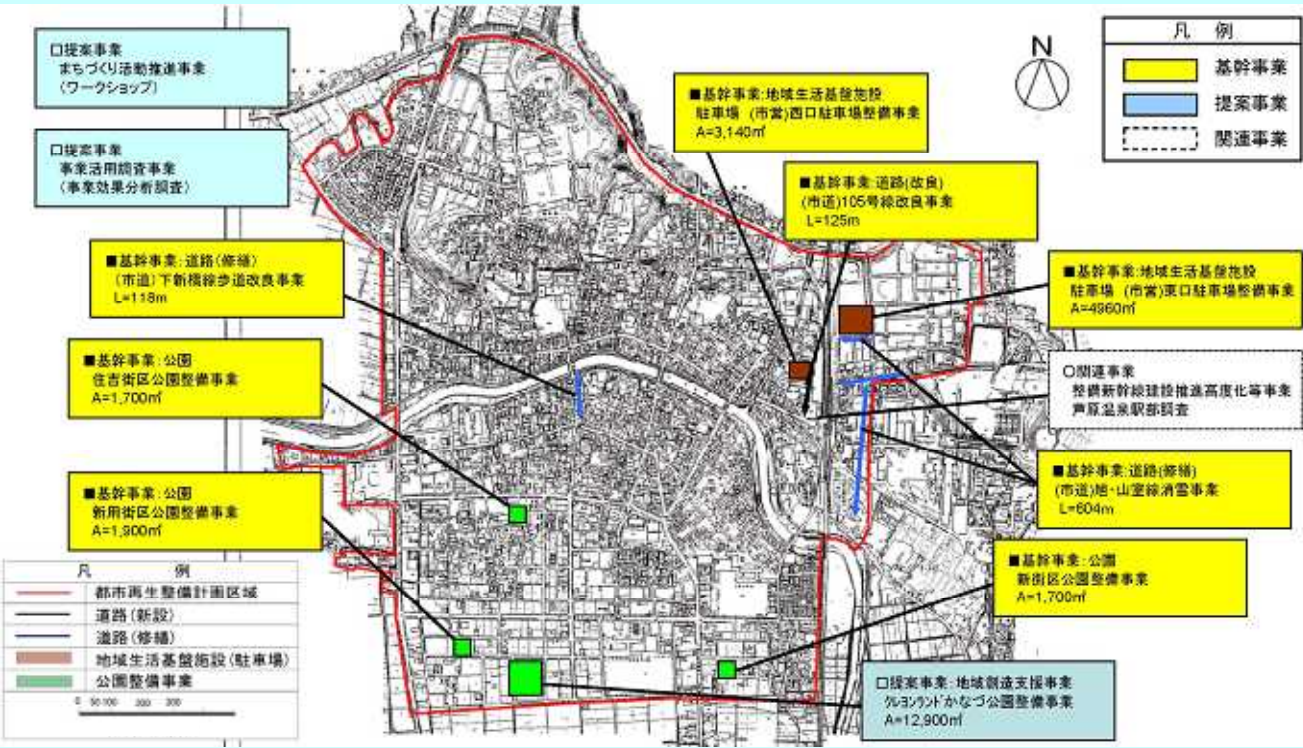
平成21年12月

福井県あわら市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県		市町村名	あわら市		地区名	JR芦原温泉駅周辺地区			面積	280ha				
交付期間	平成19年度～21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	412	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名													
		基幹事業	道路(市道105号線、市道旭・山室線)、地域生活基盤施設(西口駐車場、東口駐車場)												
		提案事業	地域創造支援事業(近隣公園外ランドかなづ)、まちづくり活動推進事業(住民参加によるまちづくり活動の推進)												
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		基幹事業	なし												
		提案事業	なし												
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道下新橋線)					本計画の目標である定住環境の向上を図るため、安全安心な通学路歩道の拡幅改修を追加			本計画の目標である定住環境の向上に関連する事業であるが、他事業による影響も大きいため、指標、数値目標は据え置く。				
			公園(住吉街区公園、新用街区公園、新街区公園)					本計画の目標である定住環境の向上をより一層高めるため、街区公園整備を追加			本計画の目標である定住環境の向上に関連する事業であるが、他事業による影響も大きいため、指標、数値目標は据え置く。				
		提案事業	事業活用調査(事後評価分析調査)					まちづくり交付金事業による整備効果を分析し、新幹線開業に向けた今後のまちづくり方策を検討するため、調査委託費を追加			なし				
	交付期間の変更	当初	平成19年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし								
変更		-													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値						
	指標1	乗降客数	%	3	H17	±0	H21		8	×	あり なし	交通ターミナル機能が強化されたものの、社会情勢の変化を背景にその効果が十分に発揮されなかった。	平成23年6月		
	指標2	地域内人口	人	8,499	H18	8,600	H21		8,650	○	あり なし	公園や生活道路の充実により良好な定住環境が形成された。	平成22年4月		
	指標3	市民活動団体数	団体	6	H17	8	H21		8	○	あり なし	ワークショップや講演会などを開催したことにより住民参加型まちづくりに対する市民気運が高まった。	平成22年4月		
	指標4										あり なし				
	指標5										あり なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	あわら市都市公園清掃管理業務委託団体数	団体	13	H17				15			公園整備により住民主体のまちづくり活動の場が整った。	なし		
	その他の数値指標2	駅周辺駐車場の利用者数	人	26,601	H17				30,263			東口駐車場の整備により新たな駐車需要が喚起された。	平成23年6月		
その他の数値指標3															
4)定性的な効果発現状況	*街区公園において計画段階におけるWSや地元主催による開園式の開催など、住民参加型の取り組みを展開したことにより、公園に対する愛着が生まれ、利用促進、地域コミュニティの醸成につながった。また、ハードとソフトの組合せによる住民参加型まちづくりの仕組みが構築できた。 *新富区が取り組んでいる“灯りのまちづくり”は、ワークショップや講演会などの取り組みを通じた住民参加型まちづくりに対する市民気運の高まりの波及効果と考えられる。														
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等				
	モニタリング	住民参加プロセスにおいて実施したWSがモニタリングの役目も兼ねたため実施しなかった。なお、WSには地元委員会のメンバーも参加している。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
		住民参加プロセス	住民参加型まちづくりの推進(ワークショップや講演会等の開催)					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					引き続き住民参加型まちづくりへの参加機会を提供するとともに、住民活動に対する継続的な支援を行う。		
			街区公園整備に係る住民参加(計画段階のワークショップ、開園式の開催)					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					今後も公共事業への市民参画を積極的に推進する。		
	持続的なまちづくり体制の構築	福井県三国土木事務所による「道路美化協定」に基づく公共施設の維持管理に対する地域の体制づくり					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					現在の協定が継続されるよう、また、新たな協定が締結されるよう、引き続き支援を行い、花と緑のまちづくりへの市民参画を促す。			

様式2-2 地区の概要

JR 芦原温泉駅周辺地区 (福井県あわら市) まちづくり交付金の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 将来の北陸新幹線芦原温泉駅の現駅併設を見据え、定住環境の向上を図りながら駅周辺の活力あるまちづくりを進める。		乗降客数	単位: %	3	H17	± 0	H21	8	H21
目標1: 将来の北陸新幹線現駅設置を踏まえた交通ターミナル機能の強化		地域内人口	単位: 人	8,499	H18	8,600	H21	8,650	H21
目標2: 地区内に散在する低未利用地の活用		市民活動団体数	単位: 団体	6	H17	8	H21	8	H21
目標3: 地域コミュニティの活性化による定住環境の整備									
  基幹事業 [道路] 市道下新橋線歩道改良事業  提案事業 [地域創造支援事業] クレヨンドかなづ公園整備事業  基幹事業 [公園] 新用街区公園整備事業  基幹事業 [地域生活基盤施設] (市営) 東口駐車場整備事業  基幹事業 [道路] 市道105号線改良事業  基幹事業 [道路] 市道旭・山室線消雪事業									
まちの課題の変化		・パークアンドライド機能を有する西口・東口駐車場が整備されたこと、また、県道芦原温泉停車場線と西口駐車場を結ぶアクセス道路(市道105号線)が整備されたことにより、交通ターミナル機能が強化されたものの、部分改良に留まっているアクセス道路(市道105号線)の整備を継続して進める必要がある。 ・また、鉄道建設・運輸施設整備支援機構が実施する整備新幹線建設推進高度化等事業による芦原温泉駅部調査に併せて、駅舎や自由通路、駅前広場などの交通ターミナル機能の確保に向けた取り組みを継続して推進する。 ・近隣公園の機能強化、街区公園の新設、歩道や消雪装置の整備による生活道路の修繕が実施されたことにより、身近な定住環境が整った。 ・市道105号線及び西口・東口駐車場の整備により、駅周辺部の低利用・未利用地が一部有効利用されたものの、新幹線開業を見据えた福井県の北の玄関口にふさわしい新たな都市機能の導入などにより、低利用・未利用地を更に有効利用する必要がある。 ・街区公園の整備の際に実施されたワークショップや開園式、また、JR芦原温泉駅周辺のまちづくりを検討の対象としたワークショップや講演会等などにより、住民参加型まちづくりへの様々な参加機会が提供され、市民気運が高まった。また、住民参加型まちづくりの仕組みが構築できた。							
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		・人々の生活を支える都市基盤を充実・強化し、さらに都市基盤の適切な維持管理を推進することにより、定住環境を更に高める。 ・今回構築した住民参加型まちづくりの仕組みを活かしながら、住民参加型まちづくりへの参加機会の提供、また、住民活動に対する継続的な支援を行うことにより、参加者の拡大、住民活動の多様化を促し、住民参加型のまちづくりを持続的に発展させる。 ・新幹線開業を見据えた交通ターミナル機能の強化を段階的に推進し、また、それら取り組みの進捗や成果を広くPRすることにより駅の利用促進を図り、駅周辺の拠点性を高める。また、交通ターミナル機能の強化にあたっては駅周辺の未利用・低未利用地を積極的に利用する。 ・現在の地域経済が低迷する状況下では新幹線開業の効果を十分に享受できないため、JR芦原温泉駅を玄関口とする観光地の誘客促進や産業の振興などの取り組みを広域的な連携のもと展開し、地域経済を活性化するとともに、駅勢圏の広域化を図る。また、駅周辺の低利用・未利用地については地域の活力向上等に資する新たな都市機能の導入などにより有効利用を図る。							

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		•			
B. 目標を定量化する指標		•			
C. 目標値		•			
D. その他()		•			

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(市道)105号線	210	W=16m L=125m	181	W=16m L=125m	線形変更に伴う買収面積の減少及び用地買収単価の下落に伴い事業費を変更	なし		●
	(市道)旭・山室線	50	W=8m L=470m	50	W=8m L=604m	舗装破損部の舗装工及び消雪工を追加	なし	●	
	(市道)下新橋線	-	なし	14	W=8.1m W=118m	本計画の目標である定住環境の向上を図るため、安全安心な通学路歩道の拡幅改修を追加	本計画の目標である定住環境の向上に関連する事業であるが、他事業による影響も大きいいため、指標、数値目標は据え置く	●	
公園	住吉街区公園	-	なし	25	A=0.17ha	本計画の目標である定住環境の向上をより一層高めるため、街区公園整備を追加	本計画の目標である定住環境の向上に関連する事業であるが、他事業による影響も大きいいため、指標、数値目標は据え置く	●	
	新用街区公園	-	なし	26	A=0.19ha	本計画の目標である定住環境の向上をより一層高めるため、街区公園整備を追加	本計画の目標である定住環境の向上に関連する事業であるが、他事業による影響も大きいいため、指標、数値目標は据え置く	●	
	新街区公園	-	なし	28	A=0.17ha	本計画の目標である定住環境の向上をより一層高めるため、街区公園整備を追加	本計画の目標である定住環境の向上に関連する事業であるが、他事業による影響も大きいいため、指標、数値目標は据え置く	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	西口駐車場	13	A=0.280ha 100台	14	A=0.314ha 100台	景観に配慮するための緑地帯設置に伴い整備面積を増加	なし		●
	東口駐車場	57	A=0.496ha 150台	57	A=0.496ha 150台	なし	-	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

¹:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	公園整備 (近隣公園クローンランドかなづ)	12	A=1.29ha	12	A=1.29ha	なし	-	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	-	なし	2	調査委託費	まちづくり交付金事業による整備効果を分析し、新幹線開業に向けた今後のまちづくり方策を検討するため、調査委託費を追加	なし		●
まちづくり 活動推進事業	住民参加によるまちづくり活動の推進 (講演会・WS)	3	講演会、ワークショップ運営費	3	講演会、ワークショップ運営費	なし	-	●	

¹: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
整備新幹線建設推進高度化事業 芦原温泉駅部調査		JR芦原温泉駅部	-	-	-	-	平成17年度から始まった芦原温泉駅部調査は、これまでに橋上駅や軌道部の設計等が実施されている。	

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ¹ 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 ²		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	乗降客数	%	平成21年5月末に公表される平成20年度のJR芦原温泉駅の乗車人員と過去の乗車人員の傾向から、基準日(平成22年3月31日)の乗降客数を推計する。	(4,660人)	H8	3% (H13:4,210→ H17:4,096)	H17	±0% (H17:4,096→ H21:4,100)	H21	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み	●	8% (4,096→ 3,744)	事後評価	×	
指標2	地域内人口	人	平成21年7月1日時点の住民基本台帳の区域内人口の住所別データに、過去の人口推移から推計される基準日(平成22年3月31日)までの人口増加分を加えたものを評価値とする。	8,207	H8	8,499	H18	8,600	H21	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	8,650	事後評価	○	
指標3	市民活動団体数	団体	内閣府NPOホームページ内にある「全国NPO法人情報の検索」で、あわら市に主たる事務所を有するNPOの中で、活動分野が「社会教育の推進、まちづくりの推進、環境の保全」である団体を検索し、団体数を計測する	0	H8	6	H17	8	H21	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	8	事後評価	○	
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み			事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み			事後評価		

指 標	目標達成度 ○ × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	JR芦原温泉駅の乗降客数は平成13年度をピークに減少傾向にあり、まちづくり交付金導入後も同様で、その減少率は改善されていない。これは定期外の減少幅が増していることが要因の一つと考えられ、現在の社会情勢を勘案すると1年以内に達成することは考えにくい。	-
指標2	目標値を達成しており、まちづくり交付金導入以降の人口の伸び率は導入前と比較して増加している。町丁目別の人口推移をみると、土地区画整理事業及びまちづくり交付金事業(公園整備)により一定の都市基盤が整った地区が増加傾向にあり、まちづくり交付金による公園整備が人口増加に貢献していることが伺える。	-
指標3	まちづくり交付金により実施した住民参加によるまちづくり活動などにより市民活動の気運が高まったことが、市民活動団体数の増加につながった。	-
指標4		
指標5		

¹ 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

² 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標) による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ¹ 計画以前の値 (ア)	基準 年度	従前値 (イ)	基準 年度	数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位										
その他の 数値指標 ¹	あわら市都市公園清掃管 理業務委託団体数	団体	平成21年7月時点の委託団体 数を調査し、基準日(平成22年 3月31日)の評価値とする。	-	-	13	H17	モニタリング			住民参加のワークショップにより 整備内容を検討し、都市公園 の整備を進めたところ、住民の まちづくり活動への参加の関心 が高まり、公園の維持管理も 住民主体で実施する等、まち づくり活動組織の育成(目標) を表す指標としてふさわしいと 考える。	「指標3:市民活動団体数」を 補完する指標としてふさわし いとする。
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標 ²	駅周辺駐車場の利用者 数	人/年	市が調査する平成20年度の利 用者数と過去の傾向から基準 日(平成22年3月31日)の評価 値を計測する。	5,335	H9	26,601	H17	モニタリング			交通ターミナル機能の強化に 伴い駅周辺利用者の利便性が 向上し、駅周辺の拠点性が高 まったことを示す指標としてふ さわしいとする。 また、西口及び東口駐車場が 低利用・未利用地を利用して整 備されているため、「目標2:低 未利用地の活用」の効果を測 る指標としてふさわしいと考 える。	達成できなかった「指標1:乗 降客数」を補完する指標とし てふさわしいとする。
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標 ³								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・街区公園において計画段階におけるWSや地元主催による開園式の開催など、住民参加型の取り組みを展開したことにより、公園に対する愛着が生まれ、利用促進、地域コミュニティの醸成につながった。また、ハードとソフトの組合せによる住民参加型まちづくりの仕組みが構築できた。

・新富区が取り組んでいる“灯りのまちづくり”は、ワークショップや講演会などの取り組みを通じた住民参加型まちづくりに対する市民気運の高まりの波及効果と考えられる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
芦原温泉駅周辺整備基本計画策定時に組織した地元委員会を定期的に開催し、事業の進め方や目標値に向かっての取り組み内容を具体的に検討する。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由: 住民参加プロセスにおいて実施したWSがモニタリングの役目も兼ねたため。WSには地元委員会のメンバーも参加)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民参加型まちづくりの推進 (ワークショップや講演会等の開催)	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	〔実施頻度〕 平成19～20年度にかけて計12回開催 〔実施結果〕 地域に対する愛着、まちづくりへの関心、参加意欲が高まった。	引き続き住民参加型まちづくりへの参加機会を提供するとともに、住民活動に対する継続的な支援を行う。
街区公園整備に係る住民参加 (計画段階のワークショップ、開園式の開催)	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	〔実施頻度〕 ・3つの街区公園それぞれで以下の取り組みを実施 ・平成20年7～11月にかけてワークショップを計3回実施 ・平成21年5月10日に住民主導による開園式を開催 〔実施結果〕 ・公園に対する愛着、住民参加型まちづくりへの参加意欲が高まった。	今後も公共事業への市民参画を積極的に推進する。

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		・体制構築に向けた取組内容	・まちづくり組織名・組織の概要	
道路美化協定に基づく公共施設の維持管理に対する地域の体制づくり	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	・福井県三国土木事務所による「道路美化協定」に基づき、自治会が公共施設の維持管理(追肥・水撒き、除草・清掃、草花の植替え)を行う。	あわら市新富区 あわら市天王区	現在の協定が継続されるよう、また、新たな協定が締結されるよう、市は引き続き支援を行い、花と緑のまちづくりへの市民参画を促す。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金事後評価検討会議	関係各課主任級職員(政策課、市民生活課、建設課)	- 期間中1回の会議を実施 実施日:平成21年9月29日 - その他、メール等にて意見交換を実施	建設課(まちづくり交付金主管課)

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		その他の数値指標1		その他の数値指標2	
指 標 名		地域内人口		市民活動団体数		あわら市都市公園清掃管理業務委託団体数		駅周辺駐車場の利用者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(市道)105号線改良事業	-	公園の新設及び機能充実により良好な定住環境が形成され、人口定着に直接的に貢献した。 また、住民参加によるまちづくり活動により住民の定住意向が高まり、人口定着に間接的に貢献した。	-	住民参加型まちづくりの参加機会を幅広く提供したことにより、市民のまちづくり気運が高まり、市民活動団体数の増加に直接的に貢献した。 また、公園における計画段階時のWSや開園式の開催、住民ボランティアによる花壇づくりなどの取り組みが間接的に貢献した。	-	公園整備により住民主体のまちづくり活動の場が整い、委託団体数の増加に直接的に貢献した。 また、公園におけるWSや開園式、住民ボランティアによる花壇づくりなどの取り組みが住民参加型のまちづくりに対する気運を高めたことが間接的に貢献した。	-	東口駐車場の整備により新たな駐車需要が喚起され、駐車場利用者数の増加に直接的に貢献した。 また、東口駐車場へのアクセスが強化され、駐車場利用者の利便性が高まったことが間接的に貢献した。
	(市道)旭・山室線消雪事業	-		-		-		-	
	(市道)下新橋線歩道改良事業	○		-		-		○	
	住吉街区公園整備事業	○		○		-		-	
	新用街区公園整備事業	-		○		-		-	
	新街区公園整備事業	-		-		-		-	
	西口駐車場整備事業	-		-		-		-	
提案事業	東口駐車場整備事業	-		-		-		-	
	ルンaland かなづ公園整備事業	-	○	○	○	○	○	-	
	事業効果分析調査	-		-		-		-	
関連事業	住民参加によるまちづくり活動の推進(講演会・WS)	○		-		○		-	
	整備新幹線建設推進高度化等事業 芦原温泉駅部調査	-		-		-		-	

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用

- ・住宅ストックを活かしながら地域住民が望む都市基盤等の強化・充実により定住環境の更なる向上を図り、住宅適地としての魅力を高める。
- ・上記取り組みや新幹線開業に向けた取り組みなどの情報を広く発信し、駅に近接する魅力ある住宅市街地としての期待を更に高める。
- ・地域住民の定住意向を高めるため、地域コミュニティの育成・強化に向けたまちづくり活動を継続的に実施する。
- ・今後も市民に対して住民参加型のまちづくり活動に参加できる機会を継続的に提供するとともに、住民主導の活動に対する支援を行う。
- ・住民参加型のまちづくり活動や新幹線開業に関する情報を広く公開し、市民活動の気運高揚につなげる。
- ・今後も市民に対して住民参加型のまちづくり活動に参加できる場や機会を継続的に提供するとともに、住民主導の活動に対する支援を行う。
- ・住民参加型のまちづくり活動や新幹線開業に関する情報を広く公開し、市民活動の気運高揚につなげる。
- ・今後も駅前広場へのアクセス道路を整備するなど交通ターミナル機能を強化することにより、駅周辺利用者の利便性を高める。
- ・駅勢圏の広域化に向けた取り組みを周辺市町との連携により実施する。

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標○			指標○			指標○		
指 標 名		乗降客数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(市道)105号線改良事業	×	駐車場やアクセス道路の整備により、交通ターミナル機能の強化が図られたものの、世界的不況などの社会情勢の変化を背景に、その効果が十分に発揮できなかった。										
	(市道)旭・山室線消雪事業	×											
	(市道)下新橋線歩道改良事業	-											
	住吉街区公園整備事業	-											
	新用街区公園整備事業	-											
	新街区公園整備事業	-											
	西口駐車場整備事業	×											
	東口駐車場整備事業	×											
提案事業	グリーンランドかなづ公園整備事業	-											
	事業効果分析調査	-											
	住民参加によるまちづくり活動の推進(講演会・WS)	-											
関連事業	整備新幹線建設推進高度化等事業 芦原温泉駅部調査	×											

目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×:事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 -:数値目標が達成できなかった中でも、
 ある程度の効果をあげたと思われる。
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが
 明確なので、評価できない。

要因の分類
 分類: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	・交通ターミナル機能の強化に向けた取り組みを継続して進め、その成果を広くPRすることによって駅の利用促進を図る。 ・環境問題への啓発も視野に入れた公共交通機関の利用促進に向けた取り組み(イベント、広報活動等)を実施する。 ・定住環境の更なる向上を図り、駅周辺部の人口定着を促進する。 ・商店街の活性化、観光地の誘客促進、産業の振興といった地域経済の活性化や駅勢圏の広域化に向けた取り組みを周辺市町との連携により展開する。			

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
まちづくり交付金事後評価検討会議	関係各課主任級職員(政策課、市民生活課、建設課)	・期間中1回の会議を実施 実施日:平成21年9月29日 ・その他、メール等にて意見交換を実施	建設課(まちづくり交付金主管課)

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
交通ターミナル機能の充実	・パークアンドライド機能を有する西口・東口駐車場が整備されたこと、また、県道芦原温泉停車場線と西口駐車場を結ぶアクセス道路(市道105号線)が整備されたことにより、交通ターミナル機能が強化された。	・部分供用に留まっているアクセス道路(市道105号線)の整備を継続して進める必要がある。 ・鉄道建設・運輸施設整備支援機構が実施する整備新幹線建設推進高度化等事業による芦原温泉駅部調査に併せて、駅舎や自由通路、駅前広場などの交通ターミナル機能の確保に向けた取り組みを継続して推進する。	なし
定住環境の充実	・近隣公園の機能強化、街区公園の新設、歩道や消雪装置の整備による生活道路の修繕が実施されたことにより、身近な定住環境が整った。	なし	
駅周辺部の低利用・未利用地の有効利用	・市道105号線及び西口・東口駐車場の整備により、駅周辺部の低利用・未利用地が一部有効利用された。	・新幹線開業を見据えた福井県の北の玄関口にふさわしい新たな都市機能の導入などにより、低利用・未利用地を有効利用する必要がある。	
住民参加型まちづくりの推進	・街区公園の整備の際に実施されたワークショップや開園式、また、JR芦原温泉駅周辺のまちづくりを検討の対象としたワークショップや講演会等などにより、住民参加型まちづくりへの様々な参加機会が提供され、市民気運が高まった。また、住民参加型まちづくりの仕組みが構築できた。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	定住環境の更なる向上	・人々の生活を支える都市基盤を充実・強化し、さらに都市基盤の適切な維持管理を推進することにより、定住環境を更に高める。	・生活道路の整備 ・住民参加による公共施設の適切な維持管理
	住民参加型まちづくりの持続的発展	・今回構築した住民参加型まちづくりの仕組みを活かしながら、住民参加型まちづくりへの参加機会の提供、また、住民活動に対する継続的な支援を行うことにより、参加者の拡大、住民活動の多様化を促し、住民参加型のまちづくりを持続的に発展させる。	・ワークショップや講演会の開催、実践の機会の提供 ・住民活動組織への支援

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	交通ターミナル機能の強化による拠点性の向上	・新幹線開業を見据えた交通ターミナル機能の強化を段階的に推進し、また、それら取り組みの進捗や成果を広くPRすることにより駅の利用促進を図り、駅周辺の拠点性を高める。 ・また、交通ターミナル機能の強化にあたっては駅周辺の低利用・未利用地を積極的に利用する。	・西口アクセス道路(市道105号線)の整備 ・整備新幹線建設推進高度化等事業「芦原温泉駅部調査」の推進 ・広報や市ホームページによるPR ・公共交通機関の利用促進に向けたイベント・PR等の実施
	駅周辺の低未利用地の活用等による地域の賑わい・活力の創出	・現在の地域経済が低迷する状況下では新幹線開業の効果を十分に享受できないため、中心商店街の活性化、JR芦原温泉駅を玄関口とする観光地の誘客促進や産業の振興などの取り組みを広域的な連携のもと展開し、地域経済を活性化するとともに、駅勢圏の広域化を図る。 ・また、駅周辺の低利用・未利用地については地域の賑わいや活力の創出に資する新たな都市機能の導入などにより有効利用を図る。	・地域経済の活性化、駅勢圏の広域化に向けた周辺市町との連携 ・駅周辺の賑わい創出に向けた仕組みづくり(都市機能導入に向けた具体的プランの検討など)

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2 - 、2 - に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2 - 、2 - から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「×」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			単位	年度	年度	年度	確定	見込み	達成度		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	乗降客数	%	3%	H17	±0%	H21	確定	●	8%	×	あり	●	平成23年6月	平成23年5月末にJRが公表する平成22年度の乗車人員データから計測	
指標2	地域内人口	人	8,499	H18	8,600	H21	確定	●	8,650	○	あり	●	平成22年4月	平成22年4月10日に公表される同年4月1日時点の住民基本台帳から計測	
指標3	市民活動団体数	団体	6	H17	8	H21	確定	●	8	○	あり	●	平成22年4月	内閣府NPOホームページにて平成22年3月31日時点の団体数を計測	
指標4				H		H	確定				あり				
指標5				H		H	確定				あり				
その他の数値指標1	あわら市都市公園清掃管理業務委託団体数	団体	13	H17			確定	●	15						
その他の数値指標2	駅周辺駐車場の利用者数	人/年	26,601	H17			確定	●	30,263				平成23年6月	平成23年6月に市が公表する平成22年度データから計測	
その他の数値指標3				H			確定								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・地域内人口、市民活動団体数は目標を達成しており、本事業の効果が十分に発揮された。	・社会情勢の変化等に作用される指標は目標設定が難しいため、慎重に取り扱う必要がある。
	うまくいかなかった点	・交通ターミナル機能の強化により鉄道利用者に歯止めをかけることを目指したが、乗降客数は本事業導入以降も下げ止まらなかった。これは社会情勢の変化を背景として観光客やビジネス目的の来訪者が減少したことなどの影響を受けたことが要因として考えられる。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・地域内人口、市民活動団体数は目標と整合できた。	・数値目標と目標・事業との関連を十分に吟味する必要がある。
	うまくいかなかった点	・乗降客数は地域経済の動向等に作用されるため、駅周辺部の取り組みだけでは指標の改善に限界があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・住民参加型まちづくりの機会を数多く提供したため、地域住民又は市民のまちづくり意識が高まった。 ・公園整備とワークショップを組み合わせ実施したことにより、ハードとソフトの組合せによる住民参加型まちづくりの仕組みが構築できた。	・活力あるまちづくりを実現する上で、住民参加型まちづくりは重要な要素であり、次期計画においても積極的に取り組む
	うまくいかなかった点	・特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・計画管理を目的として、芦原温泉駅周辺整備基本計画策定時に組織した地元委員会の定期開催を予定していたが実施しなかった。	・次期計画においても住民参加型まちづくりに地元からの積極的な参加を促す。
	うまくいかなかった点	・ただし、住民参加型まちづくりの機会に地元からも多く参加いただいたことで、計画の進捗状況等を共有しながら計画を進めることができた。	
その他	うまくいった点	・特になし	
	うまくいかなかった点	・特になし	

添付様式6 - 参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後のまちづくり交付金の活用予定 当地区において今後のまちづくり方策を実現するため、第 期 のまちづくり交付金事業を実施する。 ・今後、事後評価を予定する地区 該当なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	あわら市ホームページに掲載	平成21年10月26日～ 11月9日	平成21年10月26日～ 11月9日	Eメール 郵送 FAX 建設課窓口	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	広報「あわら」にて事前周知	平成21年10月号に掲載	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	建設課にて閲覧	平成21年10月26日～ 11月9日	平成21年10月26日～ 11月9日		

住民の意見	なし
-------	----

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	1名	計1回 平成21年12月8日	建設課 (まちづくり交付金主管課)	あわら市まちづくり交付金評価委員会設置要綱	あわら市都市計画審議会を母体とする
その他の委員	8名				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・3年間という期間内に地域内人口、市民活動団体数といった指標が達成できたこと、また、住民参加の仕組みが構築されたこと、公園の清掃管理団体が増加したことは十分に評価できるとの意見があった。 ・中心部周辺の人口は増加しているものの、中心部の空洞化が懸念されるとの意見があった。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・各事業と指標改善への貢献度・影響度については、関連性を広げすぎず、わかりやすく整理する必要があるとの意見があった。 ・指標1「乗降客数」について、達成できなかった要因は社会情勢の変化など事業とは関係のない影響が大きいとの意見があった。 ・その他の数値指標2「駐車場利用者数」について、西口駐車場が指標改善効果の直接的な影響と評価されているが、駐車場の供用が遅かったこととの整合が図れないため、見直しが必要との意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・乗降客数の増加に向けては、駅周辺の広域化を周辺市町と連携しながら実施すべきとの意見があった。 ・中心部の空洞化を防ぐためには、住宅ストックを活かした政策を進める必要があるとの意見があった。 ・幅広い広報活動に力を入れるべきとの意見があった。 ・今回のまちづくり交付金事業を通じて構築した住民参加の仕組みを、今後のまちづくりに活かし発展させることが重要との意見があった。
	フォローアップ	・今後のフォローアップ計画について、委員の理解を得た。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・第2期計画の策定に際しては、都市計画マスタープランとの整合を図ることが必要との意見があった。 ・新幹線開業を見据えた今後のまちづくりにおいては、あわらしさを盛り込む必要があるとの意見があった。 ・様々な住民活動のベクトルを同じ方向に向かわせるため、都市計画マスタープランの周知が重要であるとの意見があった。

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。